JMSCA 登山月報 第614号 令和２年５月15日発行
昭和45年12月12日第三種郵便物認可（毎月一回15日発行）

登山月報

テラムシェールのアイスプラトー

東京２０２０オリンピックの延期…… 2
第138回 Mountain World …… 4
新連載 Enjoy Climbing …… 5
2019 INTERNATIONAL ROCK CLIMBING FESTIVAL …… 6
1st ASIAN ROCK CLIMBING CHAMPIONSHIP
ＪＭＳＣＡ専門委員会報告…… 9
令和２（２０２０）年度事業計画 …… 10
登山普及情報交換会報告…… 13
寄贈図書、表紙のことば、編集後記 …… 13

No.614

東京2020オリンピックの延期

３月24日、国際オリンピック委員会（ＩＯＣ）は、新型コロナウィルスの世界的な爆発的感染拡大に伴い、第32回オリンピック競技大会の延期を決定した。３月30日付でＩＯＣからＮＯＣ（会長、事務局長、選手団団長）宛に発信された文書を以下に紹介する。

先週金曜日のビデオ会議へのご参加ありがとうございました。東京2020オリンピック競技大会の延期に伴う手順を進め、多大な要件を満たす作業を進めるうえで、皆様の連帯と力強いパートナーシップに改めて感謝いたします。

先日お約束した通り、ＮＯＣに関係のある重要事項の最新情報をお伝えいたします。

第32回オリンピック競技大会の開催時期

ＩＯＣと東京2020オリンピック組織委員会は、東京2020オリンピック競技大会を2021年７月23日から８月８日までを開催期間とすることで合意しました。

出場資格システムの改定とスケジュール変更

既に獲得した出場資格の確認

会議でも強調したように、既にオリンピック出場資格割当を獲得したアスリート／ＮＯＣは、大会延期に関わらず保持することを再度確認します。

競技別出場資格の最終決定

東京／2020の出場資格システム修正の必要性については、各国際競技連盟と緊密に作業を継続します。修正については、各ＮＯＣに確実に伝え、ＮＯＣＮｅｔ上に公表します。

このような修正に対応しやすくし、また大会延期により必要となる出場資格の原則を修正します。具体的な例としては、最大２年に緩和すること及び出場資格の最終提出期限の修正です。

オリンピック出場資格大会の一時的な中止

すべてのＩＦがオリンピック出場資格大会を中止したことに感謝いたします。また、電話会議の際にも述べたように、多くのアスリートが現在直面しているトレーニングや準備に関する大きな課題・問題、並びに自身の個人的な状況について十分認識することは重要です。

出場に向けて予選に出場するアスリートやチームにとって、公平な出場アクセスや公平で適切な準備を保証することができない限り、出場資格大会のスケジュールは確定しません。したがって、各ＩＦには、今後出場資格大会を各競技団体の日程表に組み込む場合には、新型コロナウィルス（COVID-19）の影響が判定され、制限が緩和されるまで、アスリートの健康やＩＯＣの指針に十分な注意を払うよう要請しました。

東京2020オリンピック競技大会が2021年７月に延期されることを受けて、私どもは残りの出場資格大会を直ちに再調整する必要性については、その緊急性はなしとしました。また、関係するＩＦの当該大会計画の再調整については、時間をかけ、慎重に進めます。

東京／2020の運営計画の変更

“HereWeGo”タスクフォース

ＩＯＣは東京／2020の運営計画について、タスクフォースを設置し、これまで前例のない延期に伴って必要となる変更について検討し、追加的な変更がないかを探ります。タスクフォースは常時、状況全体を把握するためにあらゆる作業活動を中央に集中させます。緊急行動としては、大会に関わる多くのファンダメンタルズ（基礎的条件）を可能な限り急いで確保することで、具体的には、競技会場、オリンピック村、メインメディアセンター、ロジスティックエリア、ホテルです。このほかタスクフォースは、延期の観点からすべての商業協定を見直して、適応させることも行います。

東京2020組織委員会へのＮＯＣの支払い

東京／2020の延期に伴い、組織委員会との間でＮＯＣの支払いスケジュールと最終支払日について最初の見直しを行いました。

東京／2020に対する支払い――例えばチケット発行、レートカード、宿泊――の締切日はすべて、新たな通知を行うまで延期とします。

大会期間が決定したので、新たなＮＯＣ支払い期日を決めます。東京／2020はまた、ステークホルダーによるこれまでの支払いをどう扱うかについて明らかにする予定です。たとえば、2021年の大会期間中の相当する予約に（これまでの支払いの）どの部分を充当させるか、どの部分を払い戻すか、どの部分が無効になるか等です。

アクレディテーションとＳＥＱスケジュール

東京／2020のアクレディテーションシステムは、現在のところリードオンリーで、ＮＯＣのロングリストを2020年４月10日までに送付するという元の締切日は適用されません。東京／2020がまもなく新たなスケジュールの確認をしますが、2020年に定めた元のタイ

ムラインとほぼ同じになるものと思われます。

東京／2020テストイベント

東京／2020は、2020年4月以降に行われる予定であったすべてのテストイベントの延期を確認しました。テストイベント及び／又はテストイベント関係作業については、新たな大会期間が決定したことから、各ＩＦと現在話し合いが行われることになります。

オリンピック・ソリダリティーからのサポート

原則として、加えてオリンピック・ソリダリティー会長との協議により、第32回東京オリンピック競技大会に関係するすべてのオリンピック・ソリダリティープログラムは2021年まで延長します。対象となるプログラムは、「アスリート向け東京2020オリンピック・スカラシップ（OlympicScholarshipsforAthletesTokyo2020）」、「チームサポート助成（TeamSupportGrants）」、「難民アスリートサポート（RefugeeAthleteSupport）」、「オリンピック競技大会補助金（OlympicGamesSubsidies）」です。

これらのプログラムに関する情報及び2021－2024年計画の見通しに関する詳細な追加情報は、オリンピック・ソリダリティーから連絡があります。

アスリートのエンゲージメントについて

各位におかれましては、きわめて困難な状況に直面している現在、アスリートのための情報収集やサポートに注力されていることと思います。ＩＯＣもまた、最新情報や新型コロナウィルスに関する情報源を提供し、Athlete365プラットフォームを継続して更新しています。最近の更新情報には、トレーニングや準備、心身の健康に関するアドバイス、アンチドーピング情報や、ＷＡＤＡ（国際アンチドーピング機構）、ＩＴＡ（独立検査機関）の最新情報等があります。今後もAthlete365をアスリート向けの情報や情報源の中心的なソースとして活用していきます。

ＩＯＣは、3月31日（火）に、世界アスリート代表者（GlobalAthleteRepresentatives）との電話会議を予定しています。この会議では、ＩＯＣ会長及びＩＯＣのディレクターが新型コロナウィルスと東京2020オリンピック競技大会に関する最新情報をお伝えし、質問に答えます。

ＩＯＣのアスリート・コミッションのメンバーもまた、貴国のアスリート代表とフィードバック、質問、懸念などを共有するために引き続き緊密に連携します。このフィードバックは、私どもにとっても非常に重要で、皆さんとの確実なパートナーシップを保ちながら、このような異例な事態の中、私どもとして可能な限りのサポートをアスリートに提供することができます。

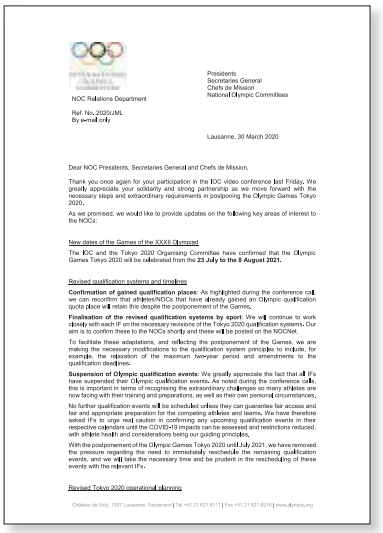
ＮＯＣリレーションズからのサポート

電話会議でもお伝えしたように、私どもは現在、これまで経験のない未知の領域に進もうとしています。したがって、すべてのステークホルダーとの不断の対話が必要です。ビデオ会議後に、皆さんには質問＆回答の書類をお約束しました。しかし、状況の変化からすると、回答の正確性は24時間程度しか有効ではありません。そのようなことから、この回状は、現状における最新情報とご理解ください。

延期に伴うすべての変更に関係する連絡先は、ＩＯＣのＮＯＣリレーションズの大会サービスチームのヘッドであるToshio.tsurunaga@olympic.orgが今後も主な連絡先となります。もちろん私どもは東京／2020ＮＯＣサービスチームの村里敏彰氏と小林亨氏とも緊密に作業を進めることで、ＮＯＣが変更されたすべての運営計画について遅滞なく情報を受け取れるようにします。

私のチームと私自身は、皆さんの課題に対する取り組みを支援することに全力を尽くします。何か質問があればいつでもお答えし、また可能な限りの手段で支援をする所存です。

この困難の中、皆さんからの変わらぬパートナーシップに感謝しています。よろしくお願いいたします。



NOC Relations Department

Ref. No. 2020/JML
By e-mail only

Presidents
Secretaries General
Chefs de Mission
National Olympic Committees

Lausanne, 30 March 2020

Dear NOC Presidents, Secretaries General and Chefs de Mission,

Thank you once again for your participation in the IOC video conference last Friday. We greatly appreciate your solidarity and strong partnership as we move forward with the necessary steps and extraordinary requirements in postponing the Olympic Games Tokyo 2020.

As we promised, we would like to provide updates on the following key areas of interest to the NOCs:

New dates of the Games of the XXXII Olympiad

The IOC and the Tokyo 2020 Organising Committee have confirmed that the Olympic Games Tokyo 2020 will be celebrated from the **23 July to the 8 August 2021.**

Revised qualification systems and timelines

Confirmation of gained qualification places: As highlighted during the conference call, we can reconfirm that athletes/NOCs that have already gained an Olympic qualification quota place will retain this despite the postponement of the Games.

Finalisation of the revised qualification systems by sport: We will continue to work closely with each IF on the necessary revisions of the Tokyo 2020 qualification systems. Our aim is to confirm these to the NOCs shortly and these will be posted on the NOCNet.

To facilitate these adaptations, and reflecting the postponement of the Games, we are making the necessary modifications to the qualification system principles to include, for example, the relaxation of the maximum two-year period and amendments to the qualification deadlines.

Suspension of Olympic qualification events: We greatly appreciate the fact that all IFs have suspended their Olympic qualification events. As noted during the conference calls, this is important in terms of recognising the extraordinary challenges so many athletes are now facing with their training and preparations, as well as their own personal circumstances.

No further qualification events will be scheduled unless they can guarantee fair access and fair and appropriate preparation for the competing athletes and teams. We have therefore asked IFs to urge real caution in confirming any upcoming qualification events in their respective calendars until the COVID-19 impacts can be assessed and restrictions reduced, with athlete health and considerations being our guiding principles.

With the postponement of the Olympic Games Tokyo 2020 until July 2021, we have removed the pressure regarding the need to immediately reschedule the remaining qualification events, and we will take the necessary time and be prudent in the rescheduling of these events with the relevant IFs.

Revised Tokyo 2020 operational planning

Château de Vidy, 1007 Lausanne, Switzerland | Tel +41 21 621 6111 | Fax +41 21 621 6216 | www.olympic.org

第138回 Mountain World

エヴェレスト北面は中国登山隊の独壇場

池田常道

コロナウイルスの感染は勢いが留まるどころか世界中に拡大してパンデミックの様相を呈し、５月12日時点の集計では感染者総数417万7504人（そのうち死者28万6330人）に達している。

この春のヒマラヤ登山はチベットもネパールもそろって閉鎖に追い込まれ、エヴェレスト（チョモランマ＝中国名）を初めとする登山許可が軒並み停止された。他の山域でも外出自粛の余波を受け、高峰から自然の岩場やボルダーはもちろん自粛、街中のクライミングジムまで休業を強いられ、この春は登攀記録の報告がほとんど聞かれないという異例のシーズンとなった。

そんななか、湖北省武漢市がこのウイルス感染の始まりと疑われている中国は自国の公募隊（ヤルラシャンポ・エクスペディションズ）によるエヴェレスト登山に許可を与え、女性６人を含む26人の隊をロンブクＢＣに送り込んだ。例年と異なり、他の登山隊が一人もいないＢＣは、あたかも英国隊が挑戦を繰り返した第２次大戦前を思い出させなくもないが、実態は、①ノースコルからの登頂に加え②最高峰の標高を再測量するほか、③ＢＣと5800ｍ地点、さらにＡＢＣ（6500ｍ）に第五世代移動通信システム（５Ｇ）基地局を設けて北面一帯に高速通信網を築く国家プロジェクトである。

＊

①は、1960年に中国隊が初めて登った（頂上は通算第２登）とする北方ルート登頂60周年を祝う意味がある。武漢市を封鎖（ロックダウン）するなどで感染が下火になったと自信を得たための措置だろうが、ロックダウン解除からまだ１か月の５月10日、同市で５人の集団感染（クラスター）が明らかになった。また吉林省でもクラスターが確認され、新たにロックダウン措置が取られた。ちなみに、中国の感染者数は無症状の人だけが統計上に表れ、検査で陽性と判定されるまでカウントされない。累計８万2918人と公表されている数字も、そういった事情を汲んで受け取る必要がある。

＊

②の標高再測量はいささか国威発揚の匂いがする。1965年のＲＳＮＨ（ネパール・ヒマラヤ研究機構）による8848ｍを中国は西蔵科学考察隊編の地図（1977年）で8848.13ｍと訂正。対してネパールは8848ｍを採用して1983年に発表された同国登山規則に明記した。

その後1999年、米国地理学協会（ナショナル・ジオグラフィック・ソサエティ＝ＮＧＳ）がＧＰＳを用いて8850ｍとしたが、中国は2005年の再測量で8844ｍと変更。これは、に山頂を覆う氷雪の厚みを測ったところ４ｍと分かったので、その分を差し引いて公式標高としたのだという。今回の隊では、その真偽を明らかにするため、ネパールとの国交65周年を記念して再測量を試みるため、測量専門家を今回の登山隊に派遣している。

一方ネパール側では、昨年５月に現地測量を終えており、現在はデータ整理の最終段階にあって結果の公表が待たれている。いまここで、また新たな測量作業に取り掛かる意図は何処にあるのか？　ＮＧＳの8850ｍを超える成果を期待してのことなのだろうか。国交65周年と銘打つには唐突な作戦にも感じられる。

＊

③の５Ｇ高速通信網は、中国網通（チャイナ・テレコム）が、トランプ米大統領から問題視されている華為技術（ファーウェイ）の協力を得て行なうもので、８トンの資材をヤクと人力で運び上げた。世界最高所（6500ｍ）まで３か所の５Ｇ基地局がすべて完成すれば北面一帯がカバーされる。

この分野の先端を争っている中国としては、その実力を世界に示す絶好の機会にはちがいない。すでに5300ｍからのストリーミング画像がチャイナ・デイリーのフェイスブックで見ることができる。

ロンブクBC（5300ｍ）からの4Kウェブカメラ画像

新連載②

Enjoy Climbing

ミネラルキャニオン開拓記　その２

横山勝丘

あのプロジェクトを終わらせるのが私にとっての最大の目標となったが、それ以外にも、手つかずのクラックはキャニオン内に無数に転がっている。目ぼしいクラックを見つけて登り捨て。そんな最高の贅沢が味わえる。ただ、考慮することがふたつあった。

ひとつは、時期の問題。2017年は11月上旬に訪れたのだが、壁が南を向いているために日中は暑くて仕方がない。夕方になって陽が傾いても、岩は熱を持っている。そもそも、その頃までには指は皮が剥けて血が滲んでしまっていた。滞在時間が短かったので仕方がないが、完全にタクティクスのミスであった。そこで、今回は時期を遅らせることにした。日差しを浴びてもクラックはヌメらず、体がしっかり動かせるくらいの気温がベストだった。基本的にキャンプ生活なので、時期が遅ければ朝晩はしんどいけれど、とにかくクライミングのことを第一に考えた。周囲のクライミング仲間たちは、私のこの計画を聞いてなんと冷ややかな視線を送っていたことか。12月のユタは私も未体験。たしかに、バクチであった。

もう一点は、パートナーの問題。いつものアルパインの遠征と違って、今回はシングルピッチのフリークライミングだ。気の合った仲間とワイワイ楽しく登れれば、という考えもなくはなかった。だけど、開拓ということを考えるとそうもいかない。一ケ月もの間、毎日朝から晩まで動き続けても、いったいどれだけのルートが完成するのか？　たぶん、登っているよりもロープにぶら下がって掃除したり、周囲を歩き回ってラインを探すなんて地道な作業に終始しているのではないか？そんなの何も楽しくない！と言われてしまいそうだ。だけど、私にはそのすべての時間とプロセスがなにより大切なのだ。であるならば、やはりパートナーにも同じものを求めたい。クライミング能力云々ではなくて、同じ感性を持つ仲間が必要だ。そこで声をかけたのが倉上慶大と加藤直之の二人だった。

倉上は、瑞牆山十一面岩のヤバいルート開拓やエルキャピタンのフリーなど、日本のフリークライミング界をリードする男だ。その圧倒的なクライミング能力とボールドさはもとより、彼の独特の着眼点には一目置いていた。ボルダラーだった彼が、何故にいきなり十一面岩のモアイフェースにルートを拓いたのか？私ごときの一般クライマーには、到底理解不能。しかしクライミングに限らず全ての分野において、ステージを押し上げるのは、豊かな才能（ここではクライミング能力）と既成概念を覆す発想がコラボする瞬間だ。彼にはその力がある。ユタという地でその力がどれだけ発揮されるのか？という興味。それはまた、私自身の好奇心とやる気を刺激し、必ずやプラスの効果となって私自身に還元されるだろうと期待した。

左より横山、加藤、倉上。目ぼしい岩を見つけるためには、自分の足で歩いて探す

加藤の本業は、スノーボーダーである。私とは家が近所で、一緒にクライミングをしに行く仲だ。インディアンクリークで一緒に登ったこともある。彼には、山が差し出す全てを享受し、それを楽しむことのできる能力がある。また、未知のものに対する嗅覚を持ち合わせている。だからこそ、これまでに数々の初滑降を成功させてきた。人々は華やかなパフォーマンスのみにフォーカスしがちだけど、悲惨な状況を受け入れてなお楽しみ、それでも進み続けようとするパイオニア精神がなければ初登攀も初滑降もありはしない。

ジェイと連絡を取ると、ちょうど私たちがモアブに着くのと入れ違いでハワイに行ってしまうと言う。もともとは彼が教えてくれた岩場。そこに門外漢の二人を連れていくことが気がかりであったが、ジェイは私たちの来訪を快諾してくれた。

「今度お前が来るときは誰かパートナーが必要になるだろうって思っていたよ。あそこは誰の岩場でもない。お前たちが登るのは自由だ。」

一方で、こうも言う。

「お願いだからＳＮＳなんかで場所を特定するようなマネは止めてくれ。どんな時代になっても、静かに登れる岩場を一つくらいは残しておきたいんだ。」

私には彼の気持ちが良く理解できる。私にも、家の近

所には開拓中の岩場がいくつかあって、それこそわが子のような感覚さえ抱いている。それを見知らぬ人間に荒らされたくない。一方で、もし誰かが自分自身の力でその岩場を見つけ、情報もないまま登り始めたとしたら、私は快く彼らを受け入れる。同じ喜びを共有できる同志として見なすだろう。情報過多、快適至上ともいえる現代において、自分自身の感性でラインを見い出し、多大な時間と労力、泥臭い作業を経て一本のルートという形に結実させる、その喜びを共有できる人間は希少だ。

倉上と加藤が仲間に加わったことで、この旅がより豊かになるのは明白だった。雄大な大地で３人が過ごした時間とエネルギーを映像として残すために、旧知のプロカメラマンである佐藤正純が食指を動かし、４人目のメンバーとなった。ジェイの思いと矛盾すると感じる方もいるかもしれないけれど、映像の露出は日本国内のメディア、私たち３人がアンバサダーという形で関わるパタゴニア、個人的な使用のみとし、極力ジェイの意に添うように心がけた。これはあくまでも、個人的な好奇心の旅なのだ。

かくして、私たち四人は11月中旬ユタへと旅立ったのであった。（つづく）

2019 INTERNATIONAL ROCK CLIMBING FESTIVAL 1st ASIAN ROCK CLIMBING CHAMPIONSHIP

参加報告

- 参　加　者　石川貴大（29歳）
- 所属クラブ　静岡エクスペディションクラブ、浜松勤労者山岳会
- 期　　間　８月28日～９月５日（移動日含む）
- 開　催　地　Tuyuk Su area（トゥユク・ス）

所　感

今回私は、カザフスタンで開催されたインターナショナルロッククライミングフェスティバルに参加した。今回も日本からは１名での参加である。昨年、ヨセミテのＩＣＭに参加したことで、私の中で海外クライミングは以前よりも身近なものになり、海外の岩場のような未体験な場所に積極的に踏み込むことの面白さをより感じるようになっていた。今回も自分にとっての新たな挑戦としてこのフェスティバルへ参加を決めた。

私は特別優れたクライマーではない。クライミングのレベルで言えば、丁度真ん中くらいの普通のクライマーだ。だが、私のような普通のクライマーが海外に目を向けていくことは今後の日本の登山界にとっても重要ではないかと感じる。海外というだけで敬遠してしまう人も多いが、実際に経験をしてみることでその面白さや素晴らしさが感じ取れると思う。「行ってみなければ分からないこと」は本当にたくさんあるのだと、私はこれまでに参加させてもらった海外クライミングイベントで実感している。私が経験したことをより多くの人に知ってもらい、クライミングレベルに関わらず、海外に目を向けるきっかけになって欲しいと感じる。特に、もっと若い世代の人達にはどんどん外にでていってほしいと思う。私も、まだ２つの海外クライミングイベントにしか参加していないが、私の経験が次に行く人たちのヒントになればと思っている。

今回、カザフスタン山岳連盟のカズベックさんと話をした際、このイベントに来た日本人は私が初めてなので、ここでの経験を是非日本の皆に発信してほしいと言われた。今後の展望として、カザフスタンと日本の交流の為、多くの日本人クライマーに訪れてほしいそうだ。このイベントに参加して各国の人たちと交流を深め、現地の人とパートナーを組んでクライミングを行えたことは、私にとって本当にプラスの経験になった。また、今回の会場となったトゥユク・スのクライミング環境は立地や岩の規模、気候条件等、素晴らしいものだった。このことは、日本の多くのクライマーに知ってもらいたいと思う。だから、私は来年以降多くの日本人クライマーに、このカザフスタンでのイベントに参加してもらいたいと感じている。

今までは、地元山岳会やクラブへの発信にとどまっていたが、今後は情報発信できる場をもっと広げていきたいと思う。一般のクライマーであっても海外に出て多くの経験を積めるということを伝えていきたい。

８月28日～29日　移動および散策

開催地のアルマトイへはインチョン経由で行った。アルマトイに到着すると空港に車で迎えに来てくれていた。当日は、クライミング会場となるトゥユク・スまで移動する予定だったが、深夜の為一旦カザフスタン山岳連盟の事務所で仮眠を取った。朝になると、カザフスタン山岳連盟のカズベックさんが来て下さり、今回のフェスティバルの概要や今後の展望を聞かせてくれた。しば

らくしてモンゴルから来た２名と合流しトゥユク・スへと向かった。トゥユク・スは、空港から約１時間で、市街地からほど近い山間にある。岩場の立地としてはとても良い。参加者はそこにあるロッジに宿泊する。到着すると、私のクライミングパートナーをしてくれたKirillが出迎えてくれた。時間があったので、翌日から私たちが登る岩場を案内してくれた。岩場へは、ロッジから徒歩30分だ。アプローチも非常にいい岩場である。岩場に着くと、200ｍを越える見事な壁が目の前にそそり立っていた。これがカザフスタンのゲレンデかと思うとなかなかの存在感だった。明日は、この岩を登るのかと期待に胸が膨らんだ。その後、近場にあったボルダーを少し楽しみ、翌日からのクライミングに備えた。

８月30日　オープニングセレモニー＆トレーニング

この日は、オープニングセレモニーが実施された。実はこの時まで知らなかったのだが、今回はフェスティバルと合わせて、1st Asian Rock Climbing Championshipも開催されることになっていた。その時は、何か選手権も一緒にやるんだなくらいにしか思っていなかった。しかし、セレモニーで選手権出場者の紹介が始まると、なんと私の名前も呼ばれたのだ。「え？」と驚いてしまった。知らぬ間にアジア選手権出ることになっていたのだ。そして、日本国旗が掲げられている意味を理解した。本当に驚いたが、始まってしまったものは仕方ないと、そのまま選手権に参加することにした。とはいえ、私は日本でもコンペは、ほとんど参加したことが無くパートナーのKirillとどれだけチームワークを発揮できるかも分からなかった。だから、ただただ不安であった。この日は、選手権で使うエリアを自由に登ることができた。その為、Kirillと一緒に手ごろな６ｂ＋（７ピッチ）のルートを登ることになった。トゥユク・スの岩場は花崗岩のフェイスクライミングでボルト主体のルートだ。岩はところどころルーズなものが多い。６ｂ＋とはいえ、意外と繊細な動きが求められた。ここ２ヶ月リバーガイドの仕事が忙しく外の岩に登るのは久しぶりだったが、とても気持ちの良いクライミングができた。

８月31日　トレーニング

朝起床すると、お腹の調子が悪かった。時差ぼけか食べ物が原因だと思う。その為、この日は、優しいグレードを登りたかったのだが、Kirillが昨日の私の登りを見て、７ａ（７ピッチ）のルートを勧めてきた。折角なので登ってみることにしたが、アプローチですでに体が重く胃が痛んだ。ただ、すぐに懸垂で降りれるルートだったので、とりあえず取付いた。奇数ピッチをリードさせてもらった。登り始めると、体調のことは忘れてクライミングに集中していた。６ｃまでは特に問題なく登れたが７ａのピッチはテンションが入ってしまった。最終ピッチでパワフルなボルダームーブを求められた。トレーニングのはずが、結構本気になってしまった。「これはトレーニングなのか？」とKirillに尋ねると、とても楽しそうに「yes!!」とニコニコしていた。彼はかなり強いクライマーらしく余裕だったようだ。この日は、つるべで登りきりKirillともうまく呼吸が合うようになった。夕食後、まだお腹の調子が良くなかったので、すぐに寝ようとシュラフに入った。しかし、「もう寝るのか？」と同室のイラン人に起こされ、食後の紅茶とお菓子を勧められた。お腹の調子が悪いから少しでいいと言ったのだが、もっと食べた方がいいと大量のナッツと果実をくれた。完全に彼らの勢いに負けてしまった。きっと１人で来ていた私を気にかけてくれたのだろう。だが、腹痛にナッツはやはりだめだった…とはいえ、彼らと互いの国のクライミングについて話す時間はとても楽しかった。グランドジョラスやトランゴタワーなど私の憧れの岩場を登ってきている人たちで、聞いていてとても刺激になった。ただ、彼らに日本においでよと言うと、ビザが下りないと言われた。国と国の関係の影響で行きたい場所に行けないというのはなんだかもどかしい気持ちになった。いつか、彼らを日本に招待できたら

と思う。

9月1日　Asian Rock Climbing Championship 1日目

いよいよ、アジア選手権がスタート。しかし、前日ナッツにとどめを刺されたお腹は絶不調だった。この日は、クライミングマラソンというものが実施された。制限時間内にどれだけ登れるかというもので、各チームがスタートするルートはくじ引きで決まる。1ルートにつき3時間の制限時間があり、それを越えた場合は終了となる。次のルート（任意）に行くためには3時間以内にトップアウトして次のルートに取付く必要がある。また、15時までに取付いたルートが最終となる。今回は男男チームと男女チームでクラスを分けて行われた。私は、Kirillと組んでいたので男男チームのクラスとなる。私たちは、7ａ＋（7ピッチ）からスタートとなった。7ａ＋は私のマルチピッチのＲＰグレードよりも上である。なので、比較的優しいピッチになる奇数ピッチを私が担当した。今回は何よりチームのスピードが重要となる。1ルート目は2時間45分で抜けることができた。2ルート目は7ａ＋（6ピッチ）のルートだ。ここでは、ラスト2ピッチが核心ピッチとなる。そのうちの1ピッチをリードさせてもらった。だが、被った傾斜が意外ときつくテンションしながら抜ける形となった。最終ピッチを抜けるとコントロールタイムを7分オーバーしており、記録としては、5ピッチ目までとなった。残念ではあったが、奮闘的なクライミングができたので満足感はあった。Kirillとここまで一緒に登ってきて、2人で達成感を共有することができたようにも思う。参加4チームのうちこの日の成績は3位であった。マラソンが終わると、お腹は元気になっていたが、ここまで通算マルチ4本（27ピッチ）を登っていたこともあり、疲れがでてすぐに就寝した。もちろん、イラン人からの紅茶とお菓子のおもてなしを受けてから。

9月2日　Asian Rock Climbing Championship 2日目

アジア選手権2日目はファイナルとなる。ファイナルは、用意されたルートの中で最も難しい7ｃ＋（7ピッチ）を各チームがトライする。4ピッチ目までを3時間で抜ける必要がある。正直7ａ＋でいっぱいいっぱいの私にとっては、7ｃ＋はかなり厳しかった。無理は承知であったが、最後なので出だしの7ａのピッチからリードさせてもらった。案の定時間が掛かってしまい、3ピッチを登り切ったところでタイムオーバーとなった。このルートは、前傾壁に加えかなり岩がルーズでアルパイン的な要素も求められた。自分にとっては、とても難しいルートだったが、最後に触ることができて良かったと思う。次回はさらに上に見えていた7ｃ＋のオーバーハングに挑戦できるよう頑張りたいと感じた。この日も順位は変わらず3位であった。岩場から戻るとスタッフが昼食を用意して待ってくれていた。色々終わってほっとしたのか、急にお腹が空いてたくさん食べることができた。その後、地元ＴＶ局のインタビューにも答えた。簡単な質問だったが片言の英語になってしまいちょっと恥ずかしかった。選手権が終わると、夕食会場で打ち上げが行われた。少しばかりウォッカを頂いたのだが、中々強烈だった。すすっただけで食道が焼けるようだっ

た。この頃には、各国のメンバーとも打ち解けて楽しい時間を過ごすことができた。

9月3日　クロージングセレモニー

この日はクロージングセレモニーだったが、式典は14時からだったので、イランメンバーと最後にクライミングに出かけた。私はヨレヨレだったので、カメラマンとして同行した。イベント中ずっとイランメンバーが私のことを構ってくれていたので、今日で最後と思うとなんだか寂しい気持ちになった。短い時間だったが最後のクライミングを一緒に楽しんだ。クロージングセレモニーでは、３位ということで銅メダルをもらうことができた。４組中なので、すごいことではないのだが日本から離れたこの場所で表彰してもらえたことは純粋に嬉しかった。今回も相変わらず片言の英会話しかできなかったが、良い仲間に出会えて、良いクライミングができて本当に素晴らしい時間を過ごすことができたと思う。ここでもらった銅メダルは私にとって、とても良い記念になった。

9月4日～5日　帰国

11時にロッジを後にし、空港へと向かった。帰りも行きと同様インチョンを経由して日本へ帰国した。予想よりもハードで怒涛の９日間となったが、また一つ良い経験を積むことができた。

【使用装備】

- ダブルロープ 50ｍ×２本
- クイックドロー 10本
- カム１セット
- ナッツ１セット
- アルパインドロー５セット
- 個人登攀装備一式
  （ハーネス、シューズ、スリング、カラビナ等）

【費用】

- 参加費　260ドル
  （宿泊費、送迎費、１日３食の食費を含む）
- 航空券　９万円
- お土産、行動食等　５千円

ＪＭＳＣＡ専門委員会報告

山岳共済委員会報告

令和２年３月24日（火）
出席者７名、委任１名

１．議　事

①令和元年度事業報告及び収支決算（案）について
令和元年度事業報告（案）と収支計算（案）について説明があった。最終的には３月末で締めて、次回委員会に諮り、ＪＭＳＣＡ総会前の理事会で報告。
その後、令和元年度の加入状況（52,942人前年比1,884人減）の解析説明があった。外向け（未組織一般登山者）の広報不足が、新規加入者の減少に顕著に表れている。
令和元年度の継続加入者更新率と新規加入者増加率から推定すると令和２年度の加入者は、50,484人とのこと。
次年度の加入促進施策として、山岳保険のプロモーション資料（パワーポイント）の岳連配布、各岳連の共済会委員の育成、各ブロック及びトレラン協会等への出前説明会の実施、高体連登山専門部へ加入促進の働きかけ、等が協議され、出来るものから具体化していく。

②エアーレスキューへの参加について
ＮＰＯ法人ACT Search & Rescueからの「会員制民間エアーレスキュー」の加入につい資料を基に説明があった。
民間エアーレスキューの構築が、もう少し固まってから再検討してはどうか、等でこの議案はペンディングとなった。

２．報　告

①令和２年度山岳共済会の加入状況について
新型コロナウイルス感染の影響で、５月始期にする加入者がいる。
個賠責を付保しない申込者が増え、保険料が減収になっている。
新規加入者が前年比で減少している。
４月１日始期の振込締切りを３月27日に延長した。
同期前年比で４％減位か？

②トレラン保険、クライミング保険のチラシ配布について
３月にトレラン保険チラシ３万部、クライミング保険チラシ１万部を作成。
トレラン保険チラシは、10大会本部に12,300部配送済

③「そうよ　そうなの　遭難よ！」の拡散について
Google Displayによるスマホへの広告媒体配信は、４月の結果を見て判断する。

３．その他

①三井住友海上火災保険の担当者変更について
５月から新担当者が着任。それまでは中野氏が窓口。

②競技会・研修会・講習会等参加者向け国内旅行保険包括契約について
ＪＭＳＣＡ加盟の各岳連（協会）の主催事業も包括するかについては、10月の契約更新　までに受付業務、提出書類様式、事業件数等を検討して対応を決める。

③マスコット・キャラクターのネーミングについて

令和2(2020)年度事業計画

Ⅰ　事業方針

本協会（ＪＭＳＣＡ）は、わが国における登山界、スポーツクライミング界及び山岳スポーツ界の統轄に関する事業を行い、これを代表する団体として安全を第一に山の環境と文化に配慮した登山、スポーツクライミング及び山岳スポーツの普及振興を図ることを活動の原点としている公益法人としてはもとより、広く国民の側に立った方針のもとに計画を立て、推進していかなくてはいけない。しかしながら、前年度の大幅赤字決算見込を踏まえ、支出削減及び累積債務解消のための収益機会に対しては十二分に検討する必要がある。

さて、令和２年度はオリンピックの年であると共にＪＭＳＣＡ創立60周年の年でもある。東京2020オリンピックでは、ＪＭＳＣＡが一丸となって全員団結でメダル獲得を目指す。東京オリンピックのレガシーとしては、パリ2024オリンピックへのロードマップを画き、ユース世代の育成強化を図る傍ら、ジャパンツアー等の国内大会を充実させ、底辺の拡大を図る。

また、選手強化とともに指導者、審判員、ルートセッター、競技スタッフ等の養成を積極的に図り、国内の競技大会を充実発展させていく。

創立60周年は、“ダイヤモンド・ジュビリー”(註)である。60年の歴史を振り返り、さらなる未来に繋がるような記念事業を展開して、ＪＭＳＣＡの存在を広く世間にアピールする。

この節目の年に我が国の登山界を統轄する団体に求められる課題は余りにも多い。中でも過去を振り返り、現実をみても変わらないのが遭難である。遭難防止対策こそが命題である。記念事業と合わせて、昨年から呼びかけている“ストップ・ザ1000!!”の減遭難キャンペーンを音声入りアニメ動画を用いて全国に展開し、減遭難運動を広く登山者に呼びかけ、安全登山の普及啓発に努める。記念事業を単なる祝賀事業とするのではなく、後世に残るような事業を展開する。

スポーツクライミングの選手の多くはＪＭＳＣＡ加盟団体の会員ではない。登山において遭難を起こしている人の多くも加盟団体会員外である。組織外の人々をいかに取り込み、またコラボしていくか、多くの人がこれらの文化を豊かに享受するために、本協会加盟団体はじめ、関係諸機関・団体等と連携・協力し、その実現に向け努力する。さらに資金的裏付けを明確にして身の丈に合った大会を運営する。

スポーツ庁により、スポーツ団体ガバナンスコード〈中央競技団体向け〉が定められ、適正なガバナンスの確保が求められている。本協会に対する適合性審査実施は、令和４年と決まった。対応が迫られている。さらに本年７月までに13項目のガバナンスコードに対する中長期計画の掲出が求められている。加盟団体には一般スポーツ団体ガバナンスコードが定められ、加盟団体もこれらの規範に則った運営が求められる。昨年度から始めている加盟団体の法人化支援と合わせて、より一層のサポートをしながら、加盟団体の組織強化を図りたい。

＜重点項目＞

1　東京2020オリンピックでスポーツクライミングのメダル獲得に向けた選手強化。
東京2020オリンピックのレガシーとして４年後のパリ2024オリンピック開催に向けて強化プランのロードマップを作成、ユース世代も含めた普及・強化にも力を入れる。

2　審判・ルートセッターの育成、特に国際的に活躍できる人材を育てる事業を行う。

3　「夏山リーダー制度」の普及を図り、全国展開する。もって以下「４」及び「５」の項目につなげるとともに登山部活動の活発化を図る。

4　「ストップ・ザ1000！！」恒常的な山岳遭難件数、死者行方不明者数の増加に対して、具体的な減遭難目標を掲げ、全国的規模で安全登山啓発事業を展開し、遭難件数、死者・行方不明者の減少に努める。情報が入りにくい未組織登山者に対しても幅のある広報が出来るように努める。特に、事故防止の施策について本協会加盟団体をはじめとした関係機関・団体等と連携して、効果的に推進する。

5　加盟団体への委託事業「少年少女登山教室」事業を中心に登山活動を啓発し、老若男女を問わず、国民の多くが自然に親しみ、しっかりした知識の基に、登山活動に興味を抱き、関心を持って頂ける様、指導者層の充実に努める。

6　夏山リーダー制度、安全登山事業と並行して衰退傾向にあるアルパインクライミングにも目を向ける。登山部の国際委員会を「国際・アルパインクライミング委員会」と改称して委員の強化を目指し、海外登山の奨励やウインタークライマーズミートを牽引する。

7　スポーツ団体ガバナンスコードに則り、登山、スポーツクライミング及山岳スポーツのＮＦとしてのあるべき組織体制として、ガバナンス、インテグリティ、サスティナビリティを確保し、国民の負託に応える。

8　ＪＭＳＣＡとはどのような存在か、外に向けて積極

的にアピール、情報発信し続ける必要がある。さらに不可欠なのが情報伝達である。広報委員会を充実させＨＰの充実や英文ＨＰの開設し、インバウンド対応を整備する。情報伝達のあり方、ＨＰを利用した広報を如何にスピーディにそして充実させていくか課題として捉え、実践する。

＜特別事業＞

ＪＭＳＣＡ創立60周年記念事業

新規記念事業を計画するほか、令和２年度事業計画の主だったものを創立60周年記念事業として開催する。記念式典は、恒例の新春懇談会を記念式典・祝賀会として開催する。記念誌については、50周年からの10年分を纏めたものとして出版。また、記念事業の一環としてＵＩＡＡテキストの日本語版を出版する。記念事業の収入源として積極的に募金活動を展開する。

＜財政再建諮問委員会設立＞

事業ではないが、重要項目なのでここに記す。

この委員会は、2019年12月に、以下の業務について常務理事会に遅滞なく答申し、常務理事会は理事会に報告する事として発足した。

⑴新規協賛企業と協賛金獲得活動

⑵収益事業の積極的導入

⑶ＳＣ競技大会施設、設備、物品、使役等の調達、支払等に関する業務の確認

⑷部門予算、総合予算執行状況の確認

⑸その他財政再建に関連する業務の遂行

令和元年度のスポーツクライミング世界選手権での大幅な赤字が発端であるが、そればかりではない。何につけても経費の支出においては十二分の注意を払わなくてはならない。令和２年度支出も意識して行う事。支出監視は必須である。

Ⅱ　予算編成方針について

前年度の大幅赤字を反省し、令和２年度予算編成にあたっては、令和元年度に発足した財政再建諮問委員会が中心になって行ったが、さらに以下の事項を遵守すること。大会支出に関しては必ず、支出基準ではなく、収入を基に支出の計画を立てる。

スポーツクライミング関連では、既に銀行融資の返済と協賛金や助成金の減額が確定していることを念頭に事業の予算準拠を目指すこと。

①すべての予算は公益法人会計基準に基づき作成する。

②本協会は公益目的事業のみであり、事業費は全予算の50％以上になるよう配分する。

③公益目的事業を主管する加盟団体には予算範囲内で助成する。

④事業計画は、内容及び費用対効果を十分検討し決定する。

⑤事業別に収入、支出を明確にして、事業規模を可視化する。

⑥独立採算の更なる厳格化目指す。

⑦選手強化ならびに競技大会費用の予算は、参加費、助成金、協賛金等の財源内で決定する。

⑧共済会委託事業費の一部は、創立60周年記念事業に充当する。

⑨過年度の事業の反省を行い、事業の見直しや新規事業の導入を図る。

⑩新規事業導入に際しては財源確保、市場ニーズなどを十分検討し決定する。

⑪参加費、登録費、出版物等には、消費税10％を外税で加算する。

⑫専門委員会の交通費予算を委員会管理費に計上する

会計上の事項として以下の点を継続して処理する。

①減価償却の実施、賞与引当金、退職給付引当金の計上。

②消費税は年度決算で引当計上し５月末までに申告納付を行う。

③内閣府や上部団体には６月末までに事業報告、会計報告を行う。

Ⅲ　組織の運営について

総務部、登山部、スポーツクライミング部の三部体制を軸に各部所属委員会は横の連絡を密にし、事業を企画・立案し推進していく。

理事は、登山界、スポーツクライミング界の情報を収集し、協会の事業推進、運営に必要と思われる事項に関し積極的に提案を行う。業務執行理事はさらに協会事業の改善と推進に責任を持ち、今後の方向性を見据えて行動する。本協会加盟団体とも意思の疎通を図り、協力して事業をスムーズに展開する。

⑴関係団体との連携

国内の上部団体であるところの日本スポーツ協会（ＪＳＰＯ）、日本オリンピック委員会（ＪＯＣ）、日本ワールドゲームズ協会（ＪＷＧ）ならびにスポーツ庁、日本スポーツ振興センター（ＪＳＣ）などの関連各省庁・機関、団体と連携を取り協力する。　特に登山においては、国内山岳三団体、国立登山研修所（安全登山指導者研修会等で協力）その他民間企業と必要に応じて連携し、登山事業の推進に努める。

国外においての関係団体として国際山岳連盟（ＵＩＡＡ），アジア山岳連盟（ＵＡＡＡ），国際スポーツクライミング連盟（ＩＦＳＣ），国際山岳スキー連盟（ＩＳＭＦ）が

ある。いずれのＩＦとも緊密な連携を図り、役員を送り込む。

⑵総務部

組織の管理部門として、協会の広報、財務、ならびに共済事業の管理運営を行う。広報委員会が前面に出て協会としての発信、アピールについて検討し行動する。財務は、事業が増えることもあり、特に日ごろの出納の推移に目を配る。

スポーツ団体ガバナンスコードに則り、次期役員改選までに役員選任に関わる事項を整備する。

⑶登山関連事業

700 ～ 800万人といわれる一般の未組織登山者に対し、10万人前後と推定される組織登山者への安全登山啓発運動の限界が注目されている中で、山岳遭難事故と遭難者・行方不明者数の減少に寄与できる事業の充実を図る。また、山岳指導者育成と安全登山教育・啓発体制の見直しは喫緊の課題であることを念頭に安全登山対策事業を構築していく。さらに並行してアルパインクライミングの振興にも尽力する。

⑷スポーツクライミング関連事業

競技大会の拡充、選手の育成と強化、公認大会の推進等を積極的に展開する。ＮＦとして、選手登録事業、若手発掘、共同事業提携先等として、積極的にクライミングジムとの連携を図る。ＩＦとは常に緊密な連携をとり、世界におけるスポーツクライミング競技に関する迅速、的確な情報収集を心がける。

Ⅳ　財政基盤の確立について

前年度大幅赤字を受けて、財政再建諮問委員会が発足した。（前述）

令和２年度からＪＳＣスポーツ振興基金の助成金申請の上限が国内大会２大会のみとなった。従って令和２年度はボルダリングジャパンカップ、コンバインドジャパンカップの申請となった。本協会の入出金構造を理解し、より厳密に取り組まなくてはいけない。

事業を実施するには，安定した財源の確保と、不要不急の出費削減が必要であることは論を待たない。役員、委員一人ひとりが常に当事者意識を持ち、事業の構築にあたっては歳入の確保を最優先に置き、収支相償に務めることが肝要である。

さらに、スポンサーとの信頼関係に基づく協賛金の獲得、新規スポンサーの確保等を通じて安定財源基盤の確立に努める。また、ＪＯＣ，ＪＳＣ、その他民間の助成団体に対し積極的にアプローチし、事業に対する理解と支援を得る。

財政基盤の確立の取り組みとして：

①受取会費及び山岳共済会等の自主財源の大幅な伸びが期待できない状況下で、国庫・県補助金等を積極的に活用し，併せてマーケティング活動による協賛金・各種大会参加者増、および登録料・参加料の見直しや広告料収入の拡大により財源の確保を図る。CLUB JMSCA ITADAKI制度を推進して会員増加に努める。

②公認大会申請の増加を促し、資金の一部とする。

③協会運営賛同者にも継続的に募金活動を行う。応募はＨＰに掲載する。

④新規協賛社の獲得のため、特別協賛プログラム（個別事業）を企画立案し実施する。

⑤本協会創立60周年記念事業に募金活動の推進を図る。

⑥各種登録、認定に伴う物品や書籍販売等を積極的に行う。

⑦その他各種公認事業を行う。

（註）ダイヤモンド・ジュビリー：重要な出来事の60周年記念日のこと。また、それを記念して開催される祝典。君主の即位や組織の創設を記念する文脈で用いられる。

※令和２年度事業計画は、３月５日に開催された理事会で承認されたものです。其の後、３月24日に東京2020オリンピック・パラリンピック大会の１年延期が発表されました。

第75回国民体育大会開催可否の検討状況について

（公財）日本スポーツ協会（ＪＳＰＯ）は、令和２年５月12日付文書にて、第75回国民体育大会（鹿児島県）の開催可否の検討状況について以下のように通知した。

４月に実施した調査では、約６割以上（全47県、1,751競技種目中1,049競技種目）の都道府県が予選会の中止又は延期を決定している。スポーツ施設の閉鎖やインターハイの中止、学校休止に伴う部活動の自粛など、アスリートのスポーツ環境が厳しく制限されている。これらの状況を鑑み、第20回全国障害者スポーツ大会を含めた標記会議を、ＪＳＰＯ、日本障がい者スポーツ協会（日障協）、スポーツ庁、鹿児島県の４者で行っており、開催の可否を６月中に判断する予定。

国立登山研修所の研修会中止について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため下記研修会を中止します。

●安全登山サテライトセミナー宮城

（６／ 20 ～ 21、東京エレクトローンホール宮城）

●高等学校等登山指導者夏山研修会

（７／ 10 ～ 12、国立登山研修所・室堂周辺）

登山普及情報交換会報告

2020年２月15日（土）国立オリンピック記念青少年総合センターで、岳連（協会）から20名の理事長・普及委員、ＪＭＳＣＡから八木原会長、前田･古賀両理事、４名の普及委員が出席して、情報交換を主として今後の登山普及をどうしていくかを話し合う場とした。

会に先立ってＪＭＳＣＡの普及委員会でこの間話し合ってきたことや今後の方向性を司会の谷口から説明。

「ジュニア登山教室 in 立山」は10年の節目となる今年度で終了。

「那須甲子雪あそび隊」もこの３月で終了する。

ジュニア普及事業は「少年少女登山教室」で引き続き継続。この経緯は、小学生などジュニアが中学校に入学した後、登山を続ける割合が少ないこと、費用対効果が薄いのでは、という意見が出たためである。

それにかえて現在全国で８,000人の登録人数がある高校の山岳部員が高校卒業後も登山を続け、組織的な自立した登山者となるような仕組みを作るほうが将来につながる。

また、高校山岳部ＯＢや未組織登山者に「夏山リーダー講習会」を積極的に受講してもらって、そこから組織作りができれば遭難防止につながっていく。

まず、八木原会長から「世の中の変化はめまぐるしい。旧態依然のやり方では社会に受け入れられない。われわれ自身が意識を変えていかないと、組織は変わっていかない。」と挨拶があった。この後、参加したメンバーから登山普及の状況を話してもらった。

どこの県でも高校の山岳部員は増えている。しかし、登山を指導できる顧問の数は減っている。県立高校は経験のある顧問が転勤してしまうと、その学校の山岳部が衰退し廃部になってしまう。こんな報告が多かった。

岳連（協会）と高体連のつながりは密になってきている。岳連（協会）の理事に高体連の先生が入っている府県もある。（広島・大阪・奈良）

岳連（協会）で高校生対象の安全登山講習会を実施している。毎年多くの参加がある。（山口）

ジュニアの登山教室で高校生が子どもたちを山に連れていくようにした。（三重）

岳連（協会）で山岳部顧問の研修会をおこなっている県もある。そのなかで顧問になった先生たちの装備がなっていない、たとえば雪山研修会でスパッツを天地逆や左右逆に着けている先生もいる。

とりあえず顧問になった人は積極的に装備をそろえようとしない。（福島・香川）

岳連（協会）の県民への認知度が、非常に低い。なにが岳連（協会）に求められているかをきちんと調べたほうがいい。（神奈川）

蛭田指導委員会委員長からは、夏山リーダー制度について以下のような説明があった。

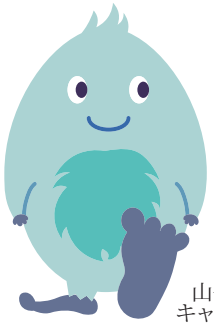
「夏山リーダー講習会は、今年度那須甲子で12名、神奈川で13名、千葉で10名の受講があった。東北や九州のブロックでも受講生を集めてくれれば指導委員会から指導者を派遣する。夏山リーダー講習会は登山経験２年以上、登山回数20回以上でないと受講できない。今後は『夏山初心者講習会』制度も作ったほうがいいかもしれない。」

（記　谷口浩平）

寄贈図書

寄贈本	平凡社	『「辰野勇」モンベルの原点、山の美学』
	笹川スポーツ財団	『スポーツ歴史の検証』
雑　誌	（株）ネイチュアエンタープライズ	「岳人」2020年５月号　No.875
	（株）山と渓谷社	「山と渓谷」2020年５月号　No.1022
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」2020年５月号　No.543
	（株）ソルメディア	「CLIMBER」No.015
会　報	（公財）京都府スポーツ協会	「京都府スポーツ時報」No.133
	明治大学山岳部炉辺会	「炉辺通信」192号
	全国高体連登山専門部	「部報」63号
	日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2285号、第2286号
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第634号
	日本太極拳連盟	「武術太極拳」No.367　2020年４月号
	健康・体力づくり事業財団	「健康づくり No.504　2020年４月号
	東京野歩路会	「山嶺」VOL.97　NO.1082
	（公社）日本山岳会	「山」No.899　４月号
	（一財）日本防火・防災協会	「地域防災」2020年４月号　No.31
	岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会	「令和元年・山岳白書」
	豊岡市立植村直己冒険館	「植村直己冒険館だより」第21号
	（株）シマノ	「Fishing Café」
	大町山岳博物館	「研究紀要」
	（公財）大崎企業スポーツ事業研究助成財団	「企業スポーツ 2020」Spring
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.726
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」４月号

私に名前を付けて下さい。



山岳共済
キャラクター

60周年募金協力者ご芳名

（2020年3月31日現在、敬称略）

10口：埼玉県山岳・スポーツクライミング協会、
6口：青森県山岳連盟、
4口：二階堂章信、2口：服部一雄
（総額：416口　　2,080,000円）

創立60周年記念事業募金のご協力をお願いします。6,000円以上の募金の場合、税額控除証明書を発行いたします。

みずほ銀行　渋谷支店　普通口座　3382501
口座名：
（公社）日本山岳・スポーツクライミング協会
郵便振替　口座記号番号 00110-5-546693
加入者名：
（公社）日本山岳・スポーツクライミング協会

表紙のことば

リモＩ峰（7,385 m）の頂上に立つと、広大なテラムシェールのアイスプラトーが眺められた。

ノース・テロン氷河の源頭域に連なる稜線の後ろにこのような広大な雪原が展開しているとは思わなかった。自然界の創造美には驚かされる。

中央奥の白い梯形の山は、ヘルマン・ブール終焉の地・チョゴリザ（北東峰7,654 m、南西峰7,554 m）である。

因みにこの珍しい写真は、フランスの山岳誌「ヴァーティカル」の表紙を飾ったこともある。

（写真撮影者　尾形好雄）

編集後記

コロナ感染拡大防止対策の自粛要請で、対面での会議、講習会、研修会など中止や延期で活動停止状態だ、ネットの普及と通信技術発展によるＷＥＢ会議がかろうじて繋げている。各委員会の講習会、研修会等も座学は場所を選ばず全国的に実施出来る可能性がある。しかし実技の伝達と対面による臨場感までは補えない、これをクリアするのが遠隔医療など次世代の「５Ｇ」による技術革命だと思うので、此の時に運用を考えるのも悪くはない。コロナ禍の早期終息（収束）を願う。

（広報担当　水島彰治）

一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒141-0031
品川区西五反田６-３-23-205
☎03-3492-0355　FAX 03-6451-3767

登山月報　第 614 号

定　価　　110 円（送料別）
予約年間　1,300 円（送料共）
昭和 45 年 12 月 12 日
第三種郵便物認可
（毎月 1 回 15 日発行）
発行日　令和 2 年 5 月15日
発行者　東京都新宿区霞ヶ丘町４番２号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会
電　話　03－5843－1631
ＦＡＸ　03－5843－1635

山岳雑誌 岳人（がくじん）

山と人、時代をつなぐ「岳人」

6月号 発売中

【特集】花の山

★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中！

毎月15日発売　価格880円(+税)

年間購読がおすすめです。

購読割引　送料無料　Tシャツセット

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常価格12冊　~~10,560円(税抜)~~ 11,616円(税込)
→ 年間購読12冊＋Tシャツ　9,680円(税抜)　10,648円(税込)

2色から選べる！

「岳人」年間購読＋岳人Tシャツセット
期間限定キャンペーン
岳人の年間購読を【新規お申し込み】または【ご継続】いただくと、「岳人Tシャツ」クーポンをセットでお届け。
キャンペーン期間（お申し込み日）
2019年10/15(火)～2020年10/14(水)
（2019年12月号から2020年11月号までの年間購読開始が対象となります）

※購読開始号に同封されているクーポンを全国のモンベルストア店頭でTシャツと交換させていただきます。ご来店いただけないお客さまには発送も可能です。

年間購読のお申し込みはこちらから！
https://www.gakujin.jp/
全国のモンベルストアでも受付中！
お問い合わせ　モンベルポスト
フリーコール 0120-982-682／TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

あなたを守る。
あしたを作る。
三井住友海上

損害保険と聞いて、
なにを思い浮かべますか？

ケガ、災害、事故…日々の中で起こりうるリスクをカバーする。それは私たち三井住友海上の重要な任務ですが、すべてではありません。たとえば同じ自動車保険でも、暮らしの変化や自動車の進化を見つめて改善を続けること、宇宙開発や再生医療など、まだ世界にない保険を新しく作ることで社会の前進をサポートすることも、とても大切な役割です。変わらない一日に寄り添い、より豊かな明日を実現したい。だから私たちは、守ることと作ること、その両方を繰り返しながら前へ歩み続けます。

JMSCA

登山者のマナー
山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- □ 傷害死亡・後遺障害
- □ 遭難捜索費用
- □ 救援者費用
- □ 傷害入院費用
- □ 傷害通院費用
- □ 傷害手術費用
- □ 個人賠償責任

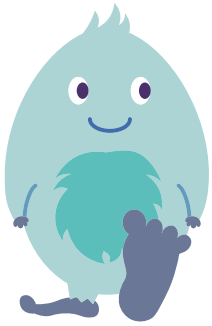
日山協 山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00（祝日除く）

携帯からも資料請求ができます。
https://sangakukyousai.com



WEBからもお申込みいただけます